

**ユーキャンの2級ボイラー技士 合格テキスト&問題集 第2版**  
**法改正等に伴う変更のお知らせ**

この度は、弊社書籍をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。

本書の記述内容について、法改正等に伴い、以下のような変更がございますので、お知らせいたします。

なお、発刊年月日により対象となる変更箇所が異なる場合がございますので、お手元の書籍の奥付で発行年月日をご確認のうえ、変更していただきますようお願いいたします。

■「初版 第1刷（2023年10月20日）」をお持ちの方

該当頁	該当箇所	変更前	変更後	変更日
下記の通り、「ボイラー及び圧力容器安全規則」の一部改正（2023年12月18日公布・施行）が行われました。				
「ボイラー及び圧力容器安全規則」第2条第4号において、電気ボイラーの伝熱面積の算定方法は、電力設備容量20kWを1m <sup>2</sup> とみなしてその最大電力設備容量を換算した面積をもって算定するものとされていましたが、この換算に用いる電力設備容量を60kWとすることとされました。				
これにより、本書の記述内容に以下のような変更が生じています。				
P. 251	本文／(3)／2行目以降	電気ボイラーについては電力設備容量 <u>20kW</u> を1m <sup>2</sup> とみなして、その最大電力設備容量を換算した面積を伝熱面積として算定します。たとえば、最大電力設備容量が <u>60kW</u> の電気ボイラーの場合、 <u>20kW</u> を1m <sup>2</sup> として換算すると、 <u>3m<sup>2</sup></u> ( $60 \div 20 = 3$ ) が伝熱面積として算定されることとなります。	電気ボイラーについては電力設備容量 <u>60kW</u> を1m <sup>2</sup> とみなして、その最大電力設備容量を換算した面積を伝熱面積として算定します。たとえば、最大電力設備容量が <u>120kW</u> の電気ボイラーの場合、 <u>60kW</u> を1m <sup>2</sup> として換算すると、 <u>2m<sup>2</sup></u> ( $120 \div 60 = 2$ ) が伝熱面積として算定されることとなります。	2024.2.2
P. 251	確認テスト／問題5	～、電力設備容量 <u>20kW</u> を1m <sup>2</sup> と～	～、電力設備容量 <u>60kW</u> を1m <sup>2</sup> と～	2024.2.2
P. 253	例題／解答／③	～、伝熱面積は <u>3m<sup>2</sup></u> と算定されま	～、伝熱面積は <u>1m<sup>2</sup></u> と算定されま	2024.2.2
P. 277	過去問にチャレンジ3／解答・解説／肢(3)	～、電力設備容量 <u>20kW</u> を1m <sup>2</sup> と～ ∴ 最大電力設備容量450kWの電気ボイラー ( $450kW \div 20kW$ ) … <u>22.5m<sup>2</sup></u>	～、電力設備容量 <u>60kW</u> を1m <sup>2</sup> と～ ∴ 最大電力設備容量450kWの電気ボイラー ( $450kW \div 60kW$ ) … <u>7.5m<sup>2</sup></u>	2024.2.2
P. 293	予想模擬試験＜第2回＞解答・解説／問36／肢(5)	～、伝熱面積 <u>3m<sup>2</sup></u> ( $60 \div 20 = 3$ ) と算定～	～、伝熱面積 <u>3m<sup>2</sup></u> ( $180 \div 60 = 3$ ) と算定～	2024.2.2
別冊 P. 14	予想模擬試験＜第1回＞／問31／肢(5)	～、電力設備容量 <u>20kW</u> を1m <sup>2</sup> と～	～、電力設備容量 <u>60kW</u> を1m <sup>2</sup> と～	2024.2.2
別冊 P. 32	予想模擬試験＜第2回＞／問36／肢(5)	最大電力設備容量が <u>60kW</u> の電気ボイラー	最大電力設備容量が <u>180kW</u> の電気ボイラー	2024.2.2